

令和 6 年 4 月 11 日

入試区分による成績分布分析（令和 5 年度卒業生）

IR 室

標題の件、下記のとおりご報告いたします。

記

1. 分析の目的と実施内容

- (1) 本学では学生の成績評価「優」を 3、同「良」を 2、同「可」を 1、「不可ないし評価不能」を 0 として Grade Point に換算している。その Grade Point 合計数を総履修登録単位数で除した数値（平均値）を GPA としている。
GPA には学期ごと、年度ごと、累積（在学全期間）の 3 種類があるが、個々の学生のトータルな成績評価には累積 GPA が最も適している。
従って、累積 GPA が 3.0 に近いほど成績優秀と判断される。
(注) 令和 6 年度以降は「優良可不可」の 4 段階成績区分から「ABCDF」の 5 段階区分に変更する。数値として A には 4 を充てるため、今後の成績評価区分（数値）は 4～0 となる。
- (2) 令和 6 年 3 月時点の 2 年生の成績（累積 GPA）を入試カテゴリーごとに分けて集計し、どの入試カテゴリーから入学した学生の成績が良いか把握し、今後の入試施策やアドミッションポリシーの見直しにつなげるため、分析を行った。
- (3) 令和 6 年 3 月時点で 2 年生の在籍学生 193 名中、留年者 12 名の累積 GPA 平均は 1.84 と低位。一方、令和 4 年度入学生（2 年間で卒業予定）181 名の累積 GPA 平均は 2.24。
- (4) 今回の分析にあたっては、前述の令和 4 年度入学生（181 名）を母集団とした。
本報告書では通常学生として表記する。

2. 分析結果

- (1) 通常学生のうち、累積 GPA 最高値では、指定校推薦の学生 2 名が各 2.98、2.94 という素晴らしい成績であった。累積 GPA2.90 以上の成績優秀学生は他に総合型選抜入試 1 回目 1 名、指定校推薦 1 名の合計 4 名であった。
- (2) 全学の成績では平均値 2.24（4 年度 2.46、3 年度 2.50）。
全体として成績平均値の低下が見られ（▲0.22）、要因分析が必要である。
成績上位者の成績は昨年度と同様、非常に高い水準にあり、全体平均値が低下した要因としては、成績下位者のレベル低下により、全体の平均値が押し下げられたことが考えられる。成績の二極化現象が想定される。

(3) 入試区分別の GPA 平均値は以下のとおり。

①総合型選抜入試 1 回目 2.17 (4 年度 2.44)。

うちコミュニケーション型 2.32 が最も高く、以下ポテンシャル型とオンライン型はともに 2.14 であった。

②指定校推薦型選抜 2.32

4 年度 (2.52)、3 年度 (2.65) より低下しており、要因分析が必要。

ただし、入試カテゴリーの中では最も高く、優秀な学生を確保するためには有力な選抜手段と言える。

③その他

総合型選抜入試では、2 回目 2.21、同 3 回目～5 回目 2.12。

総合型選抜の 3 回目以降は水準の低下が顕著である。

その他（一般選抜、共通テスト、外国人）は母数が少なく、分析に馴染まない。また成績もバラツキがある（最高値 2.85～最低値 0.96）。

3. 意見

成績上位者 21 名（累計 GPA2.70～2.98）のうち指定校推薦が 11 名、総合型選抜入試 1 回目が 6 名を占めており、双方の入試で優秀な学生の確保が可能と考えられる。

以上のことから、今後の学生募集にあたっては、従来 of 分析結果と同様、指定校推薦入試と総合型選抜入試の早期の段階（1 回目）での選抜を中心に進め、成績優秀な学生を確保していくこととしたい。

以上